

ばんけい

教育ほんといっしゅ

かわら版

こみち
教育の小径 No.192

2024 October

10月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

電光石火

稲妻の光や火打石の火のように、きわめて短い時間を形容したものです。ここから転じて、行動や動作が非常に敏速であることをたとえたものです。

文字・活字文化の振興

- 文字・活字文化は健全な人間の成長と社会の形成にとって重要な役割を果たすものであるとの考えから、平成17年(2005年)に文字・活字文化振興法が制定されました。
- 学校教育においては、読書活動の充実を図るとともに、文章を読む・書く活動を重視し、子どもたちに豊かな言語力をはぐくむことが求められます。

10月 今月の記念日

1日 コーヒーの日

全日本コーヒー協会が昭和58年(1983年)に定めました。この日は「国際コーヒーの日」でもあります。コーヒーの新年度は国際協定によって10月に始まるそうです。

文字・活字文化とは何か

「文字・活字文化」とは日ごろ耳慣れない言葉かもしれません。世の中で見聞するようになったのは、平成17年(2005年)7月に「文字・活字文化振興法」が施行されてからです。それほど古いことではありません。

この法律は、文字・活字文化が人類の長い歴史のなかで蓄積してきた知識や知恵の継承と向上、豊かな人間性の涵養、健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであるとの考えから、知的で心豊かな国民生活と社会の実現に寄与することを目的に制定されました。本法律には、文字・活字が生み出す文化は健全な人間の成長と社会の形成にとって重要な役割を果たすものであると示されています。

文字・活字文化とは、法律の規定によると、活字その他の文字を用いて表現されたもの(文章)を読んだり、文章を書いたりする精神的な活動や出版活動など文章を人に提供する活動などであると定義されています。

本法律が制定された背景には、若者の文字・活字離れや読書離れがあります。多くの小学校では、朝読書が定着し、学校図書館が日常的に利用されています。その結果、子どもたちの読書

量が増え、読書習慣が身についてきた状況が見られます。これまでの取り組みの成果といえるでしょう。

ところが、小学生から中学生、高校生、大学生へと、年齢が上がるにつれて読書離れの傾向があります。ある調査によると、大学生の2人に1人が1日の読書時間が0分だったといえますからびっくりします。新聞を読まない人が増えているという調査結果もあります。

本法律は、こうした現状に社会をあげて歯止めをかけ、生活や社会のなかで文字や活字を文化として根づかせることを目指しています。合わせて、本法律は、秋の読書週間の初日である10月27日を「文字・活字文化の日」と定めています。

本法律を踏まえた学習活動

図書や新聞などから、新しい知識や情報を得ることができます。想像力や創造力を養い、空想を膨らませ、感性を豊かにします。文章の構成や表現の仕方を学ぶこともできます。文字や活字には映像と違った力があります。

学校教育においては文字・活字から連想する活動に読書があります。読書は朝読書のほか、主に国語科の時間に行われていますが、さらに社会科や

理科、道徳、家庭科、学級活動、総合的な学習の時間などあらゆる教科等の学習場面で図書や新聞など文字・活字媒体を活用し、文章を読む活動を日常的に充実させることが大切です。

各学校では、これまで言語活動を充実させることを課題に取り組んできました。言語活動には読む活動のほか、書く、聞く、話す活動があります。これらの力を総称して言語力といわれます。わが国に文字・活字文化を根づかせるためには、読書活動だけでなく、文章を書く表現活動をさらに充実させる必要があります。

文章を書くためには書く内容がなければなりません。自分の考えをしっかりとっていなければなりません。書く活動によって、書くための知識や技能はもとより、構想力や構成力が養われます。思考力、判断力、表現力などの能力をはぐくむ機会にもなります。

本法律が、学校教育に対して言語力を涵養することを求めているのはこうした趣旨によるものと思われます。

現在、学校では1人1台の端末の普及により、文字や文章を手で書くというより、キーボードで文字を打つ活動が主流になりがちです。読む活動、書く活動ともに、アナログとデジタルのそれぞれのよさを生かしたハイブリッドな活用が求められます。

清掃指導のポイント

学校での清掃活動は、学習指導要領（学級活動）に示されているように、学校における教育指導の場として位置づいています。日ごろ生活している教室などを綺麗にする清掃活動には、自己の役割を自覚させ、協力して働くこと（協働）の意義や大切さを体感させるという重要なねらいがあります。

清掃の場所が複数あると、教師の目がゆき届かないこともあります。教師が適切に関わらないと、悪ふざけをする子どもやまじめにやらない子どもがでてきます。たかが清掃と捉えるのではなく、生徒指導や道徳教育の貴重な場として指導を重視します。

清掃の時間は学校によって多少違ってはいますが、大抵は15分から20分程度でしょう。短時間に、能率的、かつ綺麗に終わるようにするためには、仕事の内容や箇所を分担し、リーダー（班長）を中心にチームワークよく実施することが求められます。

近年、雑巾が絞れない。雑巾で床が拭けない。箒の使い方がわからないなどの課題を耳にします。モップの使い方を知らない子どももいます。家庭で雑巾や箒などを使って掃除をしていないためと思われます。早い時期に、掃除用具の正しい使い方や仕舞い方を教え身につけさせる必要があります。

ある学校では「無言清掃」を実践させています。お喋りをせず、清掃に集中させるためです。その結果、清掃が短時間で終わり、以前と比べて綺麗になったといえます。何より、子どもたちが集中力を発揮して主体的に取り組むようになったそうです。

清掃活動を子どもたちと教師が共に働く場として生かしたいものです。

教育の動向

英語教育の実施状況

文部科学省は、令和5年度の公立小学校における英語教育実施状況の調査結果を公表しています。調査対象の小学校数は18,560校です。

英語教育の担当教員数（延べ人数）は、3・4年が82,997人、5・6年が80,478人でした。担当している教員の内訳は、学級担任がもっとも多く、それぞれ50,375人と38,064人、次いで、当該小学校に所属する専科教員がそれぞれ16,620人と20,799人でした。

小学校教員の英語力についても調査しています。英語免許状を所有してい

る教員は、349,240人のうち、25,040人でした。また、英語能力に関する外部試験を受験し、CEFRのB2レベル相当以上を取得している教員は、対象にした85,847人のうちわずかに3,683人でした。

多くの小学校では、学級担任が十分な英語力がないままに、英語科や英語活動の指導を行っていることが明らかになりました。英語教育の指導体制には多くの課題がありそうです。

文部科学省がこれらの調査結果をどのように分析・検討し、英語教育の充実のためにどのような施策を打ち出すのかを見守っていききたいものです。

英語授業の具体的な状況についても調査しています。結果は文部科学省のホームページで見ることができます。



先人の残した言葉

12

トマス・アーンロド

教えなくてはならないのは、知識そのものではなくて、知識を身につける手段である。

これはイギリスのトマス・アーンロドの言葉です。リットン・ストレイチーの著した『アーンロド博士伝』のなかで紹介されているそうです。

アーンロドが1827年にパブリック・スクールの校長に就いたときに、この言葉を教育方針として明言しました。赴任した当時、学校の教育は荒れていたそうです。

アーンロドは、“教師が教えたいことを教え、暗記させ、知識の量を増やすことに学校教育の役割があるのではない。子どもたちがいかに学び、いかにして自己を高め、豊かな自己をよりよく形成していくか。そのための道筋をしっかりとつかませることこそ教育である”と訴えました。そのために大切なことは「知識を身につける手段」を

教えることだと主張したのです。

教師の権威と強制力が強く、宗教教育が重視された時代背景のなかで、学校では知識そのものを教えることより知識を身につける手段を教えなければならないという主張は、当時かなり衝撃的な考え方だったと思われます。

知識を学習の「内容や対象」としてではなく、学ぶ「道具」として捉える考え方、すなわち「方法知」として捉えることは、今日の「学び方の習得」につながるものです。これはラーニング・スキル（学習技能）を身につける指導です。アーンロドの考えは、知識を魚にとたとえると、子どもたちに「一匹の魚」を与えるのではなく「魚の取り方」（学び方）を身につけさせることを重視したものといえます。

INFORMATION

自然災害防止教育と学校の役割

防災訓練や避難訓練を行うだけでなく、その意義や必要性を子どもたちに認識させることの重要性を説いた一書！

著者/北 俊夫
定価/1,430円(税込)
発行/株式会社文溪堂



※ご注文は文溪堂代理店まで！

「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

電子書籍ユーザーになって早や10年。以前は「本は紙でない」と思っていたのですが、いざ使ってみるとその使い勝手に驚嘆しています。特に便利なのが、文字の大きさを変えられる機能。年々小さい字が読みにくなっている身には、まさに福音。最近はオーディオブックも普及し始めましたし、パピルスの昔から続いている紙の本文文化も転換点に来ているのかもしれない。(H記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2024年10月1日